

西武新宿線連続立体交差化と沿線まちづくりについて

現状と課題

(踏み切り問題)

- 区内北部を東西約 5km にわたり横断する西武新宿線は、20箇所の踏み切りがあり、そのほとんどがピーク時に40分以上踏切が遮断しているボトルネック踏切である。
- 朝夕のラッシュには踏切遮断のため、中野通りをはじめ区内の主要道路などで慢性的な交通渋滞が生じており、地域の利便性、安全性及び市街地の南北分断などが深刻な問題となっている。

(まちづくりの課題)

- 駅周辺では、駅前広場やそれにつながる道路が不足しており、バスやタクシー等の公共交通による駅へのアクセスやサービスなどが、十分に確保されない。
- 駅付近の商店街通りは、幅員が狭く歩道等もないため、自動車と歩行者等の動線とが重なり、買い物客等の安全が脅かされている。
- 周辺には木造密集市街地が広がっており、そのほとんどが緊急車両の通行が難しい狭い道路であることから、住環境や防災上課題となっている。

主な経緯等

- 昭和60年代 西武新宿線の踏み切りにおける慢性的な交通渋滞や地域の分断などが深刻な問題となった。
- 平成5年4月 西武新宿線の複々線化計画の都市計画決定
 - ・輸送力の増強を図るため、西武新宿駅から上石神井駅まで地下線を建設し、複々線化を行う計画を都市計画決定
 - ・その後、西武鉄道(株)は、乗降客数減少を理由に、複々線化事業の延期を発表

○ 平成9年7月 中野通りのアンダーパス案の検討

東京都・中野区・西武鉄道(株)で構成される検討委員会において、中野通りのアンダーパス案が好ましいとの結論が出され、議会・地元住民などへの説明を行ったものの、多くの反対意見が出された

○ 平成14年10月 西武新宿線検討会の報告

東京都及び西武鉄道(株)による検討会が設置され、中野通りを中心に、鉄道と道路の立体交差化の検討を行い、4案が提示された

○ 平成15年5月 「西武新宿線沿線まちづくり及び踏切対策検討会」の設置

区は、この4案の提示を受け、東京都・西武鉄道(株)の三者による「西武新宿線沿線まちづくり及び踏切対策検討会」を設置

○ 平成16年1月 西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟の結成

- ・区内全線地下化の実現を促進することを目的として、区民・区議会・中野区の3者により結成
- ・同同盟は、「中野区内の西武新宿線踏切問題の早期解消」について、同年2月都知事に、4月に国土交通大臣あてに要望活動を行う。

○ 平成16年1月 沿線まちづくりを考える地元勉強会が発足

- ・西武新宿線駅周辺の沿線まちづくりについて、広範な意見交換を行うため、町会・商店会などで構成された地元勉強会をスタート

○ 平成16年6月 東京都が「踏切対策基本方針」を策定

「踏切対策基本方針」において、鉄道立体化の検討対象区間(20区間)として、中井～野方駅間、野方～井荻駅間の2区間が位置づけられた

○ 平成18年1月 中野区が「新しい中野をつくる10か年計画」を策定

この計画では、「西武新宿線沿線のまちづくりと連続立体交差化によって、分断のない安全で活力のあるまちをつくります」としている